



南種子地区

かたいた いちろう
片板 一郎さん (68)



南種子町で農業を営む片板一郎さんは、農業を始めて今年で40年。就農当初から継続してコシヒカリを中心に栽培しており、その他にWCS用稲やレザリーフファンも栽培しています。また、JA種子屋久花き振興会の会長を務めるなど、農業振興にも貢献されています。

農業を始めたきっかけは？

地元の高校を卒業して県外に就職しましたが、親の土地を守りたいという思いがあり、28歳の時に後継者として就農することを決意しました。

一番大変だったことは？

種子島に帰ってきてから、一般企業に就職し、兼業農家として農業を続けてきましたが、農業を両立して進める中で、圃場の管理作業はとても大変でした。現在は、企業を定年退職し余裕もできて農作業に力を入れています。

農業を通して感じたことは？

地元農家の高齢化、後継者や担い手不足が深刻だと感じています。地元の農業が衰退していくことはいけません。高齢農家から農地を借りて栽培面積を増やしたこともあります。自分ができる範囲で地元の農業を手助けしていければと考えています。

今後の目標は？

肥料や飼料の価格高騰で農家は大変苦労しています。自分の農地を守っていくために継続して米の栽培を続けるとともに、地元の畜産農家のためにもWCS用稲の栽培を進めていきたいです。

